

重点事業認定手順について

建設局百年の杜推進部百年の杜推進課

第49回広瀬川創生プラン策定推進協議会

- 1.重点事業とは
- 2.重点事業認定の基本的な考え方
- 3.認定手順・方法の提案

1.重点事業とは

広瀬川の魅力を発信する上で効果的、かつ、「重点事業認定の基本的な考え方」に合致する事業
・・・プラン冊子p39

重点事業は、仙台市も連携し、取組事業のモデルを目指す

仙台市の関わり方

・積極的な広報の実施

広瀬川ホームページや広瀬川インスタグラムでの広報のほか、市政だより掲載、関係施設へのポスター・チラシの掲示依頼、記者発表資料(チラシ投げ込み)

・取組事業に合わせた支援

①広瀬川1万人プロジェクト	市職員による太白大橋会場の運営(秋の一斉清掃)、清掃日当日の市職員従事、清掃実施翌日のゴミ回収(青葉環境事業所、若林環境事業所)
②広瀬川で遊ぼう ③作並かっぱ祭り	イベント当日のスタッフとして市職員従事、各種行政手続き補助(名義後援依頼(河川愛護会)、河川(敷地)使用届、都市公園内行為許可使用料減免申請等)
④まち歩き(現・広瀬川界限ぶらり散歩)	河川の説明者として市職員の参加
⑤サケプロジェクト	市職員によるサケの飼育

・広瀬川魅力創生サポーター認定制度による新たな協働体制の構築

ゴールドサポーターへの認定及び更新は、「重点事業の主催団体(又は補助)として従事」することと要綱で規定されており、認定企業・団体と協働実施の機会を創る

・その他 助成金の支給など

2.重点事業認定の基本的な考え方

広瀬川創生プラン改定に伴い、「基本的な考え方」の見直しを実施

(旧プラン)

重点事業認定の基本的な考え方

多様な主体が参画できること

市民活動団体・NPO・行政・企業などの多様な主体が、お互いを尊重しつつ力を合わせて協働できるもの。

多くの市民が関わることができること

多くの市民が気軽にかつ自発的に参加することができるようなもの。

あらゆる方面への波及効果が高いこと

世代・地域・立場などを越えて、取組みの成果が幅広く波及するもの。

ソフト中心の取り組みであること

川づくりの中でも、広瀬川の自然環境等を活かしたソフト中心のもの。

(新プラン)

重点事業認定の基本的な考え方

複数の主体が連携・協力できる取組みであること

市民・NPO・行政・企業などの主体が、お互いを尊重しつつ力を合わせて協働できるもの。

市民が広く参加できる取組みであること

世代・地域・立場などを越えて、市民が気軽にかつ自発的に参加することができるもの。

ソフト中心の取り組みであること

川づくりの中でも、広瀬川の自然環境等を活かしたソフト中心のもの。

広瀬川創生プラン2025-2034での変更点

- ・旧プラン1つ目の考え方にある「多様」「参画」という表現が、実行委員会を設立して実施する大型イベントを想定させるため、実行委員会によらない小規模事業等にも対応した「複数」「連携・協力」という表現に変更し、柔軟な制度へ
- ・旧プランの2つ目・3つ目の考えを統合し、表現を「市民が広く参加できる」とすることで、小規模事業を含めた様々な事業に対応した制度へ

3.認定手順・方法の提案

重点事業認定にあたって、以下のとおり、新たな選定方法の導入を提案します(事務局案)

ステップ① 活動団体へ呼びかけ

ステップ② 活動団体より申請受付

ステップ③ 重点事業選定

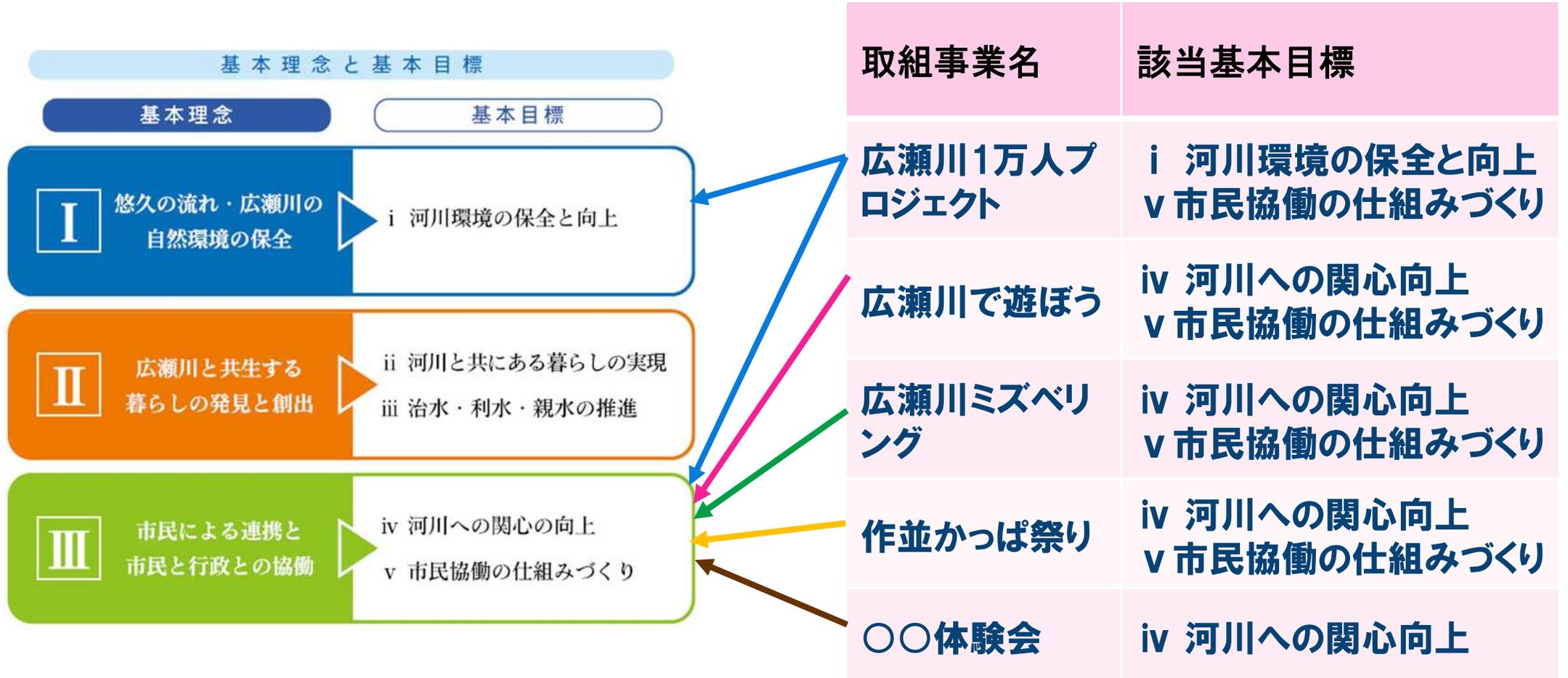
選
定
要
件

- (1)「広瀬川の魅力を発信する上で効果的」な事業であるか
…プラン基本目標の「iv 河川への関心の向上」「v 市民協働の仕組みづくり」いずれかを含む事業であることを確認
- (2)「重点事業認定の基本的な考え方」に合致する事業であるか
 - 「複数の主体が連携・協力できる取組みであること」
 - 「市民が広く参加できる取組みであること」
 - 「ソフト中心の取組みであること」

ステップ④ 協議会において候補となる事業の中から重点事業を認定
※選定要件(1)(2)すべてに該当する事業を、重点事業認定候補として協議会へ提出し、協議会の中で重点事業を認定

3.認定の手順・方法の提案

選定要件(1) 「広瀬川の魅力を発信する上で効果的」な事業であるか
 →プラン基本目標のiv vいずれかを含む事業であることを確認



3.認定の手順・方法の提案

選定要件(2) 「重点事業認定の基本的な考え方」に合致する事業であるか

基本的な考え方

取組事業名	活動団体	実施イベント内容	複数の主体が 連携・協力できる	市民が広く 参加できる	ソフト中心
広瀬川1万人プロジェクト	広瀬川1万人プロジェクト実行委員会	・河川・海岸一斉清掃	<u>複数</u>	○	○
広瀬川で遊ぼう	広瀬川であそぼう実行委員会	(R元年度実績) ・鯉のぼり設置 ・手こぎイベント 他 7事業	<u>複数</u>	○	○
広瀬川ミズベリング	広瀬川ミズベリング実行委員会	(R5年度実績) ・プレゼン大会 ・水辺で乾杯	<u>複数</u>	○	○
作並かっぱ祭り	「作並かっぱ祭り」実行委員会	(H30年度実績) ・親子川遊び講習 ・ニジマスつかみ取り 他 3事業	<u>複数</u>	○	○
〇〇体験会	□□協会	・〇〇体験	1つ	○	○

3.認定の手順・方法の提案

ステップ④ 協議会において候補となる事業の中から重点事業を認定

※選定要件(1)(2)すべてに該当する事業を、重点事業認定候補とし協議会へ提出し、協議会の中で重点事業を認定

取組事業名	選定要件(1)	選定要件(2)			
	広瀬川の魅力を発信する上で効果的 ※基本目標のiv かvを含むか	複数の主体が連携・協力できる	市民が広く参加できる	ソフト中心	
広瀬川1万人プロジェクト	<u>i・v</u>	<u>複数</u>	<u>○</u>	<u>○</u>	重点事業認定候補
広瀬川で遊ぼう	<u>iv・v</u>	<u>複数</u>	<u>○</u>	<u>○</u>	
広瀬川ミスベリング	<u>iv・v</u>	<u>複数</u>	<u>○</u>	<u>○</u>	
作並かっぱ祭り	<u>iv・v</u>	<u>複数</u>	<u>○</u>	<u>○</u>	
○○体験会	<u>iv</u>	1つ	<u>○</u>	<u>○</u>	

広瀬川魅力創生サポーター認定制度 の見直しについて

建設局百年の杜推進部百年の杜推進課

1. 認定制度の設定背景及び現行制度の概要
2. 現行制度の課題と方向性

1. 認定制度の設定背景及び現行制度の概要

【認定制度の設定背景について】

■平成29年度重点事業の報告の際に、人材確保の課題が再認識されたことがきっかけとなり、協議会内で検討を行い、H31年4月1日に運用となった

H29.10.24
第34回協議会

H29年度重点事業の課題

【広瀬川で遊ぼう】

主導的に様々な業務を引っ張っていただける**人材の確保が課題**。

【作並かつば祭り】

場外駐車場の整備のための草刈りや、当日の駐車場周辺の交通整理・誘導等に携わっていただいている方たちは年々高齢化してきていて、そういったいわゆる「裏方」というか、**見えない部分で支えていただいている人材の確保**といったことは、**大きな課題**になっている。

企業からの支援

広瀬川1万人プロジェクトと連携し、企業のCSR活動の実績となる活動の対象としたことで、非常に大きい成果があった。

企業からの支援という意味で、数社から協賛金が提供。協賛企業に対してメリットとなるようなものを提供できていない。企業がメリットと感じられる仕組みをつくれば、**協賛金だけでなく人材の確保**にもつながる。

「人材の確保」の視点から、より多くの企業から協力を得るために、企業にとってインセンティブになるような仕組みが必要

【当初 事務局提案の支援方法】

- ①プラン掲載事業の実施主体及び参加団体／企業一覧表の仙台市ホームページへの掲載
- ②書類審査による登録制度の設立
- ③書類審査および協議会の審査による認定制度の設立



1. 認定制度の設定背景及び現行制度の概要

【認定制度の設定背景について】

広瀬川グリーンサポーター

- ・ 活動内容や期間によって差別化を図る 2 段階の制度
- ・ グリーンサポーターは、間口を広げるため条件を緩めに設定（書類審査のみ）
- ・ ゴールドサポーターは、本当に頑張って活動している団体に対して、感謝の意を表したいという想いで、ある程度厳しめの条件を設定（書類+協議会での審査）

広瀬川ゴールドサポーター

協議会
での意見

- 「初めて参加する団体と、長年にわたり参加いただいている団体でランクがわかるような形が望ましい。」（第35回協議会）
- 「登録制度については、一律ではなく、活動内容や継続期間等、団体の実績に基づいた形でのランク分けは必要。」（第35回協議会）

広瀬川ゴールドサポーター
への認定基準

協議会
での意見

- ・ 清掃活動のなかで「広瀬川 1 万人プロジェクト」に限定した基準の設置

- 「1万人プロジェクトであれば参加回数が増えるごとに、ランクがあがっていくような制度もよい。」（第35回協議会）
- 「参加人数がどんどん増加している中で、会場担当の企業の負担も増加していることが問題となっている。このような制度ができれば、現在一生懸命がんばってくれている企業の励みにもなるし、新たに会場担当をやってくれる企業が出てくるきっかけとなる可能性もある。」（第36回協議会）

認定メリット

協議会
での意見

- ・ 参加企業／団体を仙台市ホームページに掲載
- ・ CSR活動のPR効果を高めるための認定証を発行（ゴールドのみ）

- 「仙台支店としてこういうCSR活動に取り組み、仙台市から感謝状をもらったとか、仙台市のホームページに掲載された」といった、本社に対してアピールができる仕組みが、費用も大きくかからずに実行可能なところから考えても有効だと考える。」（第34回協議会）

1. 認定制度の設定背景及び現行制度の概要

【現行制度の概要について】

■ 広瀬川の自然環境の保全や賑わいの創出に貢献している活動団体に対し、「広瀬川魅力創生サポーター」として認定する制度を平成31年4月1日に創設 …… 参考資料2

広瀬川グリーンサポーター



： 広瀬川創生プランの取組事業（※1）に延べ10人以上従事

※1： 申請の前年度～当該年度に開催されたもの

【認定までの流れ】

活動実施

グリーン
申請

審査

グリーン
認定

【本市の支援】

仙台市
ホームページ
で活動を紹介

広瀬川ゴールドサポーター



グリーンサポーターの認定期間中に次のいずれかの活動に従事

✓ 「広瀬川1万人プロジェクト」の清掃活動の

会場事務局（又は補助）を3年以上担当

✓ 広瀬川創生プランの重点事業の主催団体（又は補助）として

2回以上（※2）活動

※2： うち、1回は重点事業以外の事業（多くの市民が参加

できて広瀬川の保全や賑わいづくりに貢献する取組）でも可

【認定までの流れ】

グリーン
認定

活動実施

ゴールド
申請

協議会の
意見聴取
・ 審査

ゴールド
認定

【本市の支援】

仙台市
ホームページ
で活動を紹介

認定証
を交付



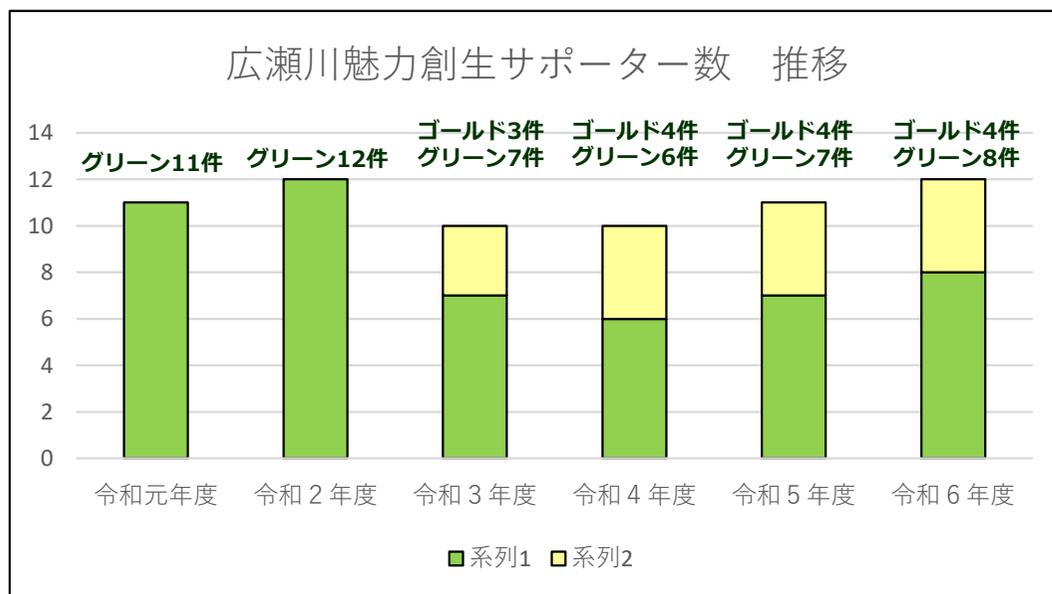
1. 認定制度の設定背景及び現行制度の概要

【現行制度の概要について】

<p>グリーン サポーター</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○NTTコムウェア（株）地域事業本部東日本支店 ○（株）開成エンジニアリング ○大和リース株式会社仙台支社 ○東鉄工業（株）東北支店 ○ニッカウヰスキー（株）仙台工場 ○（特非）広瀬川の清流を守る会 ○フジタ 東北支店 ○（公財）みやぎ・環境とくらし・ネットワーク水部会
<p>ゴールド サポーター</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○（株）N J S 仙台事務所 ○（株）建設技術研究所東北支社 ○（特非）都市デザインワークス ○（株）深松組

【現状】

- ・サポーター数はゆるやかに増加している
- ・広瀬川1万人プロジェクトの実行委員会登録数が236団体と、比較すると数値の伸びが少ない傾向もある



認定団体へのアンケートより …参考資料3

- ・ここ数年1万人プロジェクトの会場担当企業・団体に変更はないため、認定制度に申請されていない事が勿体ないと感じている
- ・認定制度の周知広報が不十分では無いか
- ・認定されることで、企業にとってメリットがあるもので有ると良い
- ・個人もサポーターになれる制度があると良い
- ・認定されていない団体にもアンケート調査をすべきではないか

2.現行制度の課題と方向性

【現行制度における課題について】

■課題

・・・参考資料4

・ゴールドサポーターへの認定基準拡大

➡認定へのステップが広瀬川1万人プロジェクトや重点事業に特化している（要綱第6条第3項）

・認定団体へのメリット向上

- ➡認定団体の活動等を、市ホームページへの掲載等を通じて広く周知し、活動を支援するのみ（要綱第4条）
- ➡広瀬川ゴールドサポーターとして認定された活動団体へ、認定証を交付するのみ（要綱第9条）

・広瀬川魅力創生サポーター認定制度の周知に係る積極的な広報

➡仙台市HP及び広瀬川ホームページに掲載のみ

協議会での意見

- やや要件のハードルが高いと感じるため、新しく活動をはじめたい企業や団体に対しても、手の届きやすい要件を検討すべき。（第36回協議会）
- 独自の「認定マーク」などを作成して、それを名刺などに記載できるなどの付加価値があるとよいのではないかと。さらには、その「認定マーク」のようなもののデータについても、たとえば企業のホームページに掲載できるようにすれば、企業のPRにつながるだけでなく、マークをきっかけにして、今回検討している制度やプランの認知度が向上し、「広瀬川創生プラン」としてもメリットが生まれるのではないかと。（第36回協議会）
- 「広瀬川の清流を守る条例」が広瀬川の環境保全に貢献した度合いはかなりのものであるから、条例の方に表彰制度が無いのであれば、プランの方で何かしらの形で表現できたらいいと思う。（第35回協議会）

2. 現行制度の課題と方向性

【課題解決の方向性①】(事務局案)

■ 認定基準の拡大

ボランティア除草や清掃活動に参加した団体も認定できるよう基準を拡大

「認定基準の拡大」の効果

・ 河川環境の保全

広瀬川1万人プロジェクトや河川愛護会等による美化活動のほか、継続的な河川管理の取組みによる河川環境の保全

・ 鳥獣対策

河川へ近づかせない環境づくり（隠れ場所の減少やエサの減少等）

【参考】 認定団体アンケート結果

(※11団体にアンケート実施 うち9団体回答)

Q 除草など維持管理に寄与する取組みに、団体（企業）として参加・協力することに興味はあるか？

A 9団体中8団体 興味がある と回答

【想定する参加・協力方法】

- ・ 構成員（従業員）のボランティア参加（6団体）
- ・ 社内報・掲示板などでの周知・広報（2団体）
- ・ その他（イベントや事業の構想・組立て段階から関わりたい、ボランティア団体との共同実施）

2. 現行制度の課題と方向性

【課題解決の方向性②】(事務局案)

■ メリットの向上

- ・ 広瀬川魅力創生サポーターへの認定が、活動されている企業・団体のCSR活動の証明となるような枠組みの検討
- ・ 表彰制度の検討 等

「メリットの向上」の効果

・ ボランティア活動の活性化

企業・団体参加の増加により、清掃・除草活動活性化（官民連携の河川維持管理のあしがかり）

・ 認知度の向上

地域貢献活動としてより多くの企業・団体の目に触れる機会創出

【参考】 その他メリットの検討

他自治体や本市のサポーター制度 支援例

【SAITAMAリバーサポーターズ】(埼玉県)

- ・ 企業・団体マッチング
- ・ 川の再生活動資材の貸し出し
- ・ 川の再生活動資材の提供(軍手、ごみ袋等)
- ・ 資料及び会報等の印刷
- ・ 環境学習への講師派遣及び講師謝礼の支払い

【仙台まち美化サポート・プログラム】

(仙台市環境局家庭ごみ減量課)

- ・ ごみ袋の提供や掃除用具の貸与
- ・ 回収したごみの処理
- ・ 市民活動における保険適用

2. 現行制度の課題と方向性

【課題解決の方向性③】(事務局案)

■ 積極的な広報の実施

- ・ 広瀬川インスタグラムや市政だよりを活用し、積極的に制度を周知
- ・ 認定ロゴマークの検討 等

「積極的な広報の実施」の効果

・ 広報効果の向上

インスタグラムや市政だよりで制度紹介を行い、詳細は既存のHPに誘導することで広報効果向上（SNS等で広く情報発信を行い、HPで情報量を補完）

・ 受動的な受け手への情報発信

興味・関心のない企業・団体が情報を受け取るきっかけを創出

【参考】 仙台市広報活動の指針

① 各広報手段の特性の把握

【例】 広報課が所管・運用する広報手段での比較（★強み ×弱み）

	報道機関	広告	市政だより	HP	SNS
認知度	★	★	★	★	
即時性	★	×	×	★	★
情報量			×	★	×

※HPは自らアクセスする必要があることや個別記事が埋没しやすい弱みがある。

② 組み合わせ（メディアミックス）

それぞれの広報手段には強みと弱みがあることを理解し、広報手段を組み合わせることで弱みを補完する

出典：仙台市広報課

今後の主なスケジュール(予定)について

資料5



	重点事業について	広瀬川魅力創生サポーター認定制度について
令和7年7月10日	・第49回広瀬川創生プラン策定推進協議会開催(本日)	
7月	(中旬) ・令和7年度重点事業 募集開始	
8月	 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> ・令和7年度重点事業 選定作業 </div>	(上旬) ・アンケート調査実施 (対象: 認定団体・企業及び協議会委員)
9月		
10月	・第50回広瀬川創生プラン作成推進協議会開催 →令和7年度重点事業の認定について	
11月		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> ・調査結果まとめ ・認定制度見直しの方向性検討 </div>
12月		
令和8年1月	(上旬) ・令和8年度重点事業 募集開始	
2月	(上旬) ・令和8年度重点事業 選定作業	
3月	(下旬) ・第51回広瀬川創生プラン策定推進協議会開催 (1) 令和8年度重点事業について (2) 「広瀬川魅力創生サポーター認定制度」見直し案について	

広瀬川創生プラン 令和7年度取組事業一覧(案)

資料6

令和7年度に新規追加・拡充された取組事業



R7.7.10 時点

No.	活動団体名	取組事業名	事業紹介
1	広瀬川創生プラン 策定推進協議会	広瀬川創生プランにおける 重点事業の実施と進行管理	市民やNPOなどの各主体が協働し、多様な人々が広く参加できる取組みなどを重点事業に認定し、その活動を推進するとともに、進行管理を行う。
2		広瀬川ゴールドサポーター 認定に対する意見の発信	広瀬川ゴールドサポーターの認定・不認定の決定にあたり、仙台市の審査結果に対して意見を発信する。
3	広瀬川市民会議	親水空間の利活用の検討推進	広瀬川における親水空間の利活用を推進するための検討を行う。
4		広瀬川市民会議の拡充	事務局体制の確立を図るとともに、活動を通じて他の団体との連携を図りながら、組織を拡充する。
5	広瀬川1万人プロ ジェクト実行委員会	広瀬川1万人プロジェクト河 川・海岸一斉清掃	仙台市人口1%の1万人をキーワードとして、市民・企業・行政が連携して広瀬川流域を含む河川・海岸一斉清掃や広瀬川学校などの啓発活動を実施する。
6	(公財)みやぎ・環境 とくらし・ネットワ ーク	「身近な水環境の全国一斉 調査」への参加(広瀬川の水 質調査)	毎年6月に全国水環境マップ実行委員会が実施する「身近な水環境の全国一斉調査」に参加し、広瀬川の上流から下流までの数地点の水質調査・水辺観察を行う。
7		「水の神さま」プロジェクト	地域に祀られている龍神碑・水神碑・不動尊など水にまつわる神さまを題材に、地元住民へのヒアリングを通して、地域住民の水に対する思いや水辺の変化などを踏査・発信する。震災後は沿岸地域を中心に調査・発信を実施。
8	(公財)日本野鳥の 会 宮城県支部	定例探鳥会の実施	大橋からの野鳥観察を含む青葉山定例探鳥会を、原則として毎月第1日曜日に、青葉山平日探鳥会を5月と12月に、千代大橋付近の野鳥を観察する広瀬川下流探鳥会を3月に開催する予定。
9	(特非)都市デザイ ンワークス	せんだいセントラルパーク構 想	社の都仙台のシンボルである青葉山や広瀬川が地下鉄東西線と交差する広瀬川流域一帯において、資源発掘や“5つの楽しみ方 佇むビクニック・巡るまち歩き・集うマーケット・知るミュージアム・食のカフェレストラン”を提案し、市民の参加・共感の輪を広げる構想。
10		伊達な川床	全国都市緑化フェアにおいて、官民協働により、河川空間の自然を楽しめるような伊達(人目をひくオシャレ)な仮設の川床を設置し、広瀬川大橋周辺を市民も観光客も訪れることができる名所とする。
11		大橋リバーフロントプロジェク ト	大橋を中心とした広瀬川河川空間及び、広瀬川に面する青葉山公園(仮称)公園センター、西公園、住宅や店舗、またその庭先等のまち空間を、一体的なせんだいセントラルパーク重点エリアと位置づけ、都市生活や活動賑わいの小さな拠点(パークハウス)を設置し、沈下橋や潜り堰または飛び石による歩行者ネットワークを創出する等して、広瀬川大橋周辺を市民も観光客も訪れることができる名所とする。
12		水辺で乾杯	水辺での全国的な取組み「ミズベリング」のイベントであり、7月7日午後7時7分に世界の水辺で乾杯するもの。
13		広瀬川自転車ライド	環境に優しく心身の健康に繋がる「自転車」を活用し、広瀬川の河川敷をルートに含むグループライドを実施し、新しい生活様式に合ったレクリエーションのあり方を提示する。
14	(特非)都市デザイ ンワークス 青葉山エリアマネジ メント 青葉山・八木山フッ トパスの会	もりの庭園 雨庭づくり	仙台市第一号の雨庭「もりの庭園」を市民の力で、もっと魅力的な場所にするプロジェクト。雨庭とは、建物の屋根や舗装された地面に降った雨水が外に流れ出して排水管などを溢れさせたりしないように、雨水を一時的に溜めて、ゆっくりと地下に染み込ませる庭のこと。
15	仙台市カヌー協会	カヌーで河川清掃クリーン アップ広瀬川	カヌーで河川清掃「クリーンアップ広瀬川」& 体験会は、毎年8月お盆翌週の日曜日開催しています。お世話になっている広瀬川の岸辺に漂着したゴミを川の中から清掃します。午後は、新しい仲間を迎える「カヌー体験会」を同じ会場で開催しています。お一人さまはもちろん、ご家族、お友達でチャレンジください。
16		カヌーリバーレスキュー・ ワークショップ	リバービープル必須のレスキュー方法をワークショップ形式で開催しています。カヌーに関わらず多くの川遊びの皆さんを対象に募集しています。水の事故から自身を守るため、ライフジャケット着用での流下方法、ロープレスキュー方法をこの機会に体得ください。
17		広瀬川カヌーツーリング・そ ののためのレッスン	5～11月 広瀬川でカヌーツーリングを楽しむための4回シリーズのカヌーレッスン。卒業後は落合から折立まで3.5kmの川旅にチャレンジです。
18		市民総体カヌーファンスラ ローム大会	カヌーのツーリング・レスキュー技術をゲーム形式にしたものです。年齢、性別、国籍一切不問で楽しんでいるカヌー仲間ですが、この試合では良きライバルに。試合後は、鍋を囲みつつ互いの技術を賞賛する場になっています。
19		カヌー体験会	シーズン4～5回、河川清掃後などのイベントに合わせて「カヌー体験会」を開催しています。短い時間ですが、カヌーを通じて川に親しんでいます。体験会のまともはプチツーリング。ふわふわする水面。川から見上げる景色をお楽しみください。

No.	活動団体名	取組事業名	事業紹介
20		広瀬川市民会議との協働	1980年アユ釣り仲間と任意団体として発足。 1974年仙台市が「広瀬川の清流を守る条例」に定めた市長、事業者、市民の責務を明確にした「市民協働の川づくり」に共感し、「広瀬川の清流を守る会」としました。 2001年4月に法人化。河川法に定めた「治水・利水・環境」のバランスある川づくり活動をしてきました。本会は市民、行政関係者と共に清流保全活動を推進し、広瀬川の自然、歴史、文化を守りながら後世に伝える活動に務めました。水辺から環境学習の場とし、五感で感じる川体験や魚の観察、ホタルが生息する支流川でホタル飼育と観察会を開催し、小学校や地域連携による学びを展開してきました。
21		広瀬川清掃	(以下活動紹介) ONPO 法人として関係行政と連携し、法令、条例に基づき環境のバランスある川づくりを目指します。 ○毎月発行の川守通信による広報と行政、市民、事業者と協働し、「いい川づくり」を目指します。 ○川の魅力発見 ・清掃しながら川観察、春夏秋冬の会員相互の親睦会開催(花見・アユ、芋煮、サケを味わう) ・春夏に遡上するアユ、サクラマス他回遊魚の観察 ・冬に飛来するオオハクチョウの観察、植物等、四季を通して観察します ・水面の川学習を支援します ○広瀬川の濁水対策 ・長年継続する広瀬川の濁水による魚類斃死は、環境問題として大きな課題となっています。 ・その原因は愛宕堰の取水(申請者・仙台市長)によって河川法の維持流量が守られていません。 ・老朽化した堰や破損した魚道。本流の濁水現象に対する環境保全は、行政の必須課題です。 ・背景のダム管理や河川管理(県)に加え、国交省と市が連携し、合理的な改善が求められます。 ・広瀬川の清流を守る条例(市制定50周年)に際し本腰を入れた協働による解決に努めます。 ○活動の参加 ・河川清掃⇒4月～12月、翌年3月/第2土曜日午前10時～12時 ・広瀬川灯籠流し⇒8/20⇒ボランティア参加の方へ(無料招待/8月アユ祭り・11月サケ祭り) ・広瀬川の清流は仙台の象徴。学校や地域で川を学び、清流保全の意識を高め次代へ繋ぐ参加を。 ○SDGs & ESDの実践 ・国交省の河川協力団体(2014年指定)として双方支援活動を継続推進します。 ・広瀬川の課題解決に向け、行政と市民そして関係団体と共に協議し、活動します。 ・広瀬川の自然、歴史、文化を学ぶ場を作り、後世に伝えます。 ・広瀬川を学び・見る、知る、語る。その協働で「いい川づくり」から観光資源に繋がります。 ○ESDの実践/学校教育 ・小中高大学の環境教育は地域資源の原点を回り、未来に向けた環境づくりに貢献する。 ・分かり易く専門的な教育環境をつくるのが求められる。 ・安全な川遊び⇒場所/八本松親水池(バリアフリーの水辺で水遊び・メダカ取り等を五感で感じる) 障がい者も楽しめる/同上(じゃぶじゃぶ池)の活用 ・自然の再生 ⇒ 広瀬川の濁水改善、身近な水路(四谷用水、郡山堀、木流堀、旧芥川)の自然、歴史) ・水路の整備 ⇒ 魚類の再生 ・水路の清掃 ⇒ 環境の保全 ・地域の連携 ⇒ 環境の維持 ・活動の連携 ⇒ 環境の向上 ・活動の発信 ⇒ 環境の協働
22	(特非)広瀬川の清流を守る会	漁協共催 アユ祭り・サケ祭り(八本松親水池)	
23		広瀬川何でも相談室	
24		川づくり提言・市民協働フォーラム開催	
25		笹流し・水辺で乾杯(八本松親水池)/広瀬川灯ろう流し支援活動(宮沢緑地)	
26	広瀬川灯ろう流し実行委員会	広瀬川灯ろう流し・光と水のコンサートの夕べ	夏の風物詩として、先祖や大切な人への思いは馳せる灯ろう流しや火花打ち上げ、地域団体のステージ発表などを実施する。
27	森民酒造・及川酒店	純米吟醸酒「清流広瀬川」	広瀬川の伏流水と県産米<蔵の華>で仕込んだ純米吟醸酒を製造・販売する。
28	関山街道フォーラム協議会	関山街道の四季フォトコンテスト	宮城・山形両県をつなぐ関山街道(国道48号)沿線の四季折々の魅力を写したお気に入りの写真を募集いたします。地域の活性化、観光交流の増加につながることを期待し、応募いただいた写真は国内外に情報を発信できればと考えています。
29		関山街道作並地区を巡る探訪会～「関山街道開鑿殉難之地」の碑での慰霊の集いと隠れ滝探訪～	仙台市青葉区作並にある、関山街道の歴史を今に伝える「坂下境目御番所跡」の「関山街道開鑿殉難之地」の碑(広瀬川源流端の標柱)で慰霊の集いと作並温泉の隠れた名瀑布「熊沢大滝(作並大滝)」や「隠れ滝」の探訪を行います。 ※明治13年7月21日(1880年)「坂下境目御番所跡」で、関山隧道掘削のための火薬の爆発事故で犠牲になられた23名の方に、ささやかな祈りをささげます。
30	白沢カルデラプロジェクト実行委員会	白沢カルデラ外輪山を歩こう会(白沢カルデラ実働部隊)	白沢カルデラ・広瀬川の地質、地形等の自然資産を活かして、地域における大地の成り立ちや歴史を学び、将来的には広瀬川ジオパークとしての登録を目指します。
31	GARDEN of RIVER, SENDAI project	広瀬川大橋 水辺の青空学校	「庭の手入れをするように、集まった人たちが楽しく川原の手入れができれば」というアイデアを望想アイデアコンテストで発表したことが活動の始まりです。「水辺の青空学校」は水辺の清掃・除草活動を通して、楽しみながら水辺環境の保全に取り組み、学び、人々が交流する場です。今までは見ているだけだった広瀬川に近づいて、川を知り親しみきっかけの場となればと考えています。これをきっかけに今後、川を通して、自然環境、歴史、文化を感じたり考えたりしながら、川が身近にある暮らしを育み、川のあるまち仙台の魅力を広げ、未来へつなごうと思います。

No.	活動団体名	取組事業名	事業紹介
32		河川水辺の国勢調査	河川を「環境」の観点からとらえた生物調査・河川調査・河川空間利用実態調査を定期的に行う。
33	国土交通省仙台河川国道事務所	広瀬川及び旧筑川環境用水導入事業	広瀬川の水環境を守ることを目的に、夏場の水量の問題を改善するために、既存の水路を活用して名取川からの環境用水導水施設の整備をH16年3月に完了した。流量低下時に名取川から河川水を導水する。(仙台地域水循環協議会にて実施、仙台河川国道事務所は事務局)
34		緊急用河川敷道路整備事業	大地震等の大災害時において、被災者の救援活動、被災地の復旧活動及び物資の輸送等に活用できる緊急用河川敷道路を整備する。
35		河川利用の適正化検討	河川協力団体と連携し、市民目線で見た適正な河川利用のためのルール作りを検討し、河川利用者への啓発活動を実施する。
36		非接触型流量観測(画像処理型流速測定)	広瀬川の治水計画立案や工事の実施、又、大規模洪水時の基礎資料を収集する目的で、広瀬川広瀬橋へ画像処理型流速測定機器を設置している。従来は、浮子(高水流量観測)を用いて流速を観測していたが、流量観測の効率化(DX)や安全管理を徹底するため、非接触型流量観測を実施している。
37		みやぎスマイルリバープログラム(アドプト制度)	宮城県管理河川の一部区間において、清掃や除草などの良好な河川環境づくりに取り組むボランティア団体を「スマイルサポーター」として認定し、地域と連携して環境美化を行う。
38	宮城県仙台土木事務所	中州・寄州の樹木管理	中洲・寄州の樹木や土砂について、H17年に策定した広瀬川管理計画に基づき適正管理を行う。
39		広瀬川環境管理協議会	広瀬川管理計画に基づく管理を行い、周辺状況の変化など必要に応じて協議会を開催する。
40	国土交通省仙台河川国道事務所 宮城県仙台土木事務所	護岸の改修・修景	コンクリート護岸の老朽化に伴う改修と同時に、修景を必要な箇所ですべて対応する。
41		当事者との調整	河川敷の占用をしている人や団体との調整を行い、不法占用を解消する。(広瀬橋から下流は国が、広瀬橋から上流は県がそれぞれ実施。)
42	(特非)水・環境ネット東北 (国研)土木研究所(大)宮城教育大学 仙台市建設局河川課	竜の口溪谷多自然川づくり事業	令和元年度、産学官民連携により広瀬川支流である竜の口溪谷へ魚類の遡上が可能となるよう、最下流部の既存落差工へ低コストな切欠き魚道を設置した。この魚道設置を契機として、市民団体による継続的なモニタリング調査(生息魚類調査)、ワークショップ(維持管理・修繕)、意見交換会等が開催され、市民の河川環境に対する理解・関心を深めることに繋がっている。また、モニタリング調査の結果、ヨシノボリ類の生息・定着が確認され、魚道の整備効果も実証されている。
43	仙台市健康福祉局健康政策課	歩こう動こう脱メタボプロジェクト～アルーワーク仙台～	歩くことを促すウォーキングイベントの開催と、特設ウェブサイトで身体を動かすきっかけを増やせるような情報や、健康づくり全般に関する情報発信を行う。
44	仙台市子ども若者局子育て応援都市推進課	仙台市遊び場展開事業	子どもの遊びの環境を充実させることを目的に、広瀬川河川敷および西公園多目的広場等に子どもの遊び場を一時的に仮設し、子ども達が自発的に遊ぶ機会を提供するとともに、プレーパーク活動の啓発や担い手の発掘、遊びを引き出すスタッフの育成を行う。
45		屋内遊び場基本計画の策定	子どもの遊びの環境の充実を図るため、本市の魅力の一つである豊かな自然を活用した遊びや、屋外の遊びと連続性をもった遊びが可能となるような施設について、西公園南側エリアを候補地とした基本計画を策定します。
46		生物多様性保全推進事業	カジカガエルなど仙台にゆかりのある生きものに着目し、多様な主体と連携しながら、自然や生きものと直接ふれあい、その魅力や大切さについて学ぶ機会の充実を図る。
47	仙台市環境局環境共生課	四ツ谷用水再発見事業	広瀬川の四ツ谷堰から取水し、かつての城下町を潤した四ツ谷用水の周知と継承を図るため、四ツ谷用水跡をたどる歩く会、四ツ谷用水フォーラムなどの啓発イベント等を実施する。
48		自然環境に関する基礎調査	保全上重要な動植物、学術上あるいは景観保全上重要な地形・地質、自然現象等について整理し、様々な環境施策の検討や各種公共事業・開発事業の持続可能な方向への誘導に資する。(5年毎に2年にわたって調査を実施、直近は令和2年度及び令和3年度に実施した。)
49	仙台市環境局環境対策課	水質・底質調査	河川の水質・底質(泥)及び、広瀬川の清流を守る条例の水質保全区域における工場・事業場の排水を調査する。
50	仙台市経済局農林企画課	広瀬・名取川水系さけます増殖協会への参加	採卵・放流事業やふ化場管理・整備の助成等を行う協会へ参加し、さけ・ます資源の積極的増殖を図る。
51		淡水魚放流事業補助	広瀬川にあゆ、いわな等の稚魚の放流事業を行っている「広瀬名取川漁業協同組合」へ補助を行う。
52	仙台市経済局農業土木課	愛宕堰改修事業	老朽化の著しい固定堰を利水・治水・環境に配慮した新堰に改修する。
53	仙台市建設局下水道計画課	仙台市公共下水道事業(宮城処理区)	平成21年に公共下水道整備は概成したが、引き続き広瀬川の水質保全、公衆衛生の向上を図るため、汚水処理施設の整備事業等を継続する。
54		合流式下水道雨天時越流水対策事業	合流式下水道について、雨天時の越流に対応するための改善事業を実施する。
55	仙台市建設局下水道調整課	仙台市浄化槽事業	広瀬川上流域の下水道区域外の地域で、公設公管理型の浄化槽事業を推進する。

No.	活動団体名	取組事業名	事業紹介
56	仙台市建設局公園整備課	青葉山公園整備事業	藩政時代からの歴史的・文化的資源や自然景観を生かしながら、市民や仙台を訪れた人が親しむことのできる杜の都のシンボルとなる公園として整備する。
57		西公園再整備事業	樹林や広瀬川の自然を生かしつつ、多様な市民活動が展開される「やすらぎとにぎわいの空間づくり」をテーマに、市街地の「みどりの回廊」の拠点にふさわしい公園として再整備する。

No.	活動団体名	取組事業名	事業紹介
58	仙台市教育局科学館	広瀬川の魚・環境の展示	仙台市科学館の常設展示コーナーで、広瀬川の魚全種のアクリル封入標本と、水槽による実物展示や、広瀬川の源流から河口までの流域模型と水が流れる体感展示を行う。 令和6年度に4階常設展示室の南側を「宮城・仙台の自然」エリアとしてリニューアルした。このエリアでは、広瀬川全景の床地図を配置。床地図に合わせて、山地、丘陵地、沿岸部の自然を再現したジオラマや、広瀬川周辺の生き物の標本などを展示し、また、広瀬川を下流から上流へ向かって空を飛んで行くような疑似体験ができる「スカイアドベンチャー」を新設した。
59		総合学習・自然観察会等の学習支援	広瀬川をテーマとする総合学習・自然観察会等の実施への支援・協力を行う。
60		広瀬川自然展示コーナー	片平市民センター内の仙台市科学館広瀬川自然展示コーナーにおいて、四谷用水やそれを支える仙台の地質・地形などに関して、プロジェクションマッピングを活用した展示を実施している。
61	仙台市建設局百年の杜推進課	広瀬川(大橋周辺)水辺利活用の検討	青葉山エリアの新たな魅力を創出し、都心部との回遊性の向上を図るため、市民等が気軽に楽しめる広瀬川(大橋周辺)の水辺利活用について検討を行う。
62		緑化助成・緑化木交付	広瀬川の清流を守る条例に基づき環境保全区域内での行為を許可した土地において緑化を実施する場合、助成を行う。
63		仙台市広瀬川清流保全審議会の運営	広瀬川の清流を守る条例に基づき、広瀬川の清流を守るための重要事項を調査・審議する。
64		六郷堀・七郷堀非かんがい期通水事業	市民の身近な存在である六郷堀および七郷堀をはじめとした各堀の悪臭抑制、景観改善のため、平成17年1月から開始した非かんがい期通水事業を継続する。
65		広瀬川ホームページ	広瀬川に関する自然・歴史・文化・市民活動・インタビュー・研究レポートなど、多様な情報発信と意見交換の場を提供する。
66		観光資源としての広瀬川の魅力発信	携帯用散策マップ「広瀬川へ行こう」や「広瀬川ホームページ」などを活用・更新し、観光資源としての魅力を発信する。
67		市民協働事業の推進	広瀬川に関わる市民参加型事業の企画推進を図り、他機関と協働して創生プラン推進に努める。
68		広瀬川市民活動マップの作成	広瀬川をフィールドとしたNPO等の活動マップを広瀬川ホームページ上で公開し、広く周知・活用を図る。
69		交流会の開催等によるネットワークづくり	活動団体同士の連携・協力を促進するためのきっかけづくりや新規活動に対する支援等により、取組事業の継続と新たな取組事業の創出を図る。
70		市民センターとの連携	各市民センターで行われる広瀬川に関わる事業を広瀬川ホームページなどに掲載するほか、講師の紹介・派遣を行うなど市民センターとの連携を推進する。
71		広瀬川自然体験学習	川の生き物探しやカヌー体験、川での安全な歩き方などを学びながら自然豊かな広瀬川を体感してもらう。
72		広瀬川スマホ写真教室	広瀬川沿いの見どころを徒歩で巡りながら、スマートフォンによる写真撮影の仕方や編集などの基本について学ぶことで、広瀬川への意識の醸成を目指す。
73	#広瀬川 インスタクラブ 仙台市建設局百年の杜推進課	仙台市公式 #広瀬川 Instagram に掲載する情報収集と更新	広瀬川に関する行政の取り組み(治水・利水・親水)をInstagramをとおして発信し、市民の広瀬川への関心がより一層高まるよう醸成を図る。また、広瀬川創生プランに関わる各協団体の活動をInstagramを通じて情報発信し、広瀬川をめぐるさまざまな市民活動への市民の関心を喚起する。(川歩き等の市民イベント同行による情報発信)。更に、定期的にアクセス解析を実施し、情報発信の改善につなげる。
74	(学)東北工業大学 仙台市建設局百年の杜推進課	東北工業大学ライフデザイン学部連携事業	東北工業大学ライフデザイン学部の授業の一環として、学生が広瀬川を訪れ、歴史や環境などについて学ぶ機会を提供する。
75	片平市民センター 仙台市建設局百年の杜推進課	広瀬川界限ぶらり散歩	片平地域は仙台市の中心部にあり、藩政時代から残る由緒ある史跡や自然が共存している風光明媚な場所です。市民センターで養成した広瀬川ボランティアガイド「広瀬川をゆっくり歩く会」の案内で、広瀬川を中心に地域をめぐり、魅力を伝えていきます。
76		広瀬川ガイドの養成	広瀬川の魅力を語りながら各スポットを案内する、地域の「広瀬川ガイド」を養成する。
77	宮城県仙台二華高等学校	広瀬川フィールドワーク	仙台二華高等学校は課題研究の主題として「世界の水問題の解決」を掲げ探究活動を行っています。中学では泉ヶ岳や北上川をフィールドに探究学習を行い、高校では広瀬川、北上川、メコン川というように、県内を流域とする身近な生活に影響を与えている水利用から、県を超えて水利用が進む姿、そして国境を越えて水の利活用が進むメコン川と段階を進めて探究活動をしています。特に、令和5年度からは、広瀬川の水の利活用を学ぶことで、身近な生活の場面に生かされる水環境について考えていきたいと活動を進めています。
78	FEEL Sendai 社の都の市民環境教育・学習推進会議	社々かんきょうレスキュー隊事業 プログラムNo.5「川で遊ぼう～あんぜんに・たのしく・やさしく～」	社々かんきょうレスキュー隊事業は、社の都仙台の特色ある自然環境・社会環境を素材に、環境NPOなどが環境学習プログラムを作成し、提供する事業です。プログラムを体験し、身近な自然や地球を守るために環境に配慮した行動の取れる人(=社々かんきょうレスキュー隊員)となることを目的としています。作成された環境学習プログラムは、市内の小中学校や保育所等を対象に実施し、普及・活用を行っています。環境学習プログラムのうちの1つ「川で遊ぼう～あんぜんに・たのしく・やさしく～」は、川に入ったの活動をする際に適した装備や行動、そして危険箇所等を学ぶと共に、実際に川に入って魚や水生生物を採取し観察します。
79	仙台市河川愛護会	外来種植物調査	外来種植物の繁茂により、河川の流水等の機能に支障が生じていることを受け、仙台市河川愛護会による外来種調査を実施し、現状の把握を行う。

No.	活動団体名	取組事業名	事業紹介
80	仙台市公園愛護協力会	河川緑地の除草・清掃	<p>広瀬川河川敷にある河川緑地の除草・清掃を行うなど地域と連携して環境美化を行う。</p> <p>(実施場所)</p> <p>広瀬川牛越緑地、広瀬川仲ノ瀬緑地、広瀬川中河原緑地、広瀬川宮沢緑地、広瀬川若林緑地、広瀬川愛宕緑地、広瀬川飯田緑地、広瀬川八本松緑地</p>

プラン及び取組事業の周知・認知方法について

さらなるプラン及び取組事業の周知・認知のために広報等を実施します



【現状】

①当課所管のSNSの活用

- ・ 広瀬川ホームページ
- ・ 広瀬川インスタグラム

②本市広報課所管の広報媒体の活用

- ・ 仙台市政だより
- ・ 市政記者クラブへ資料（チラシ）提供



（課題）

把握できたイベントのみの情報共有にとどまっている

【今後の方向性】

①交流会を検討

- ・活動団体間の交流会開催を検討

②広瀬川ホームページの充実

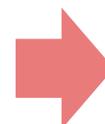
- ・イベントカレンダーへの掲載
→取組団体へ広報希望調査を実施
- ・インスタグラムでのイベントカレンダーの
情報周知

③他局ポータルサイトの活用

- ・防災環境都市・仙台 モリノカレッジ

④関係機関へのイベントチラシの配付

- ・各区役所や関係機関へ当課よりイベントチ
ラシを配布



取組事業の活性化を目指す